【4月のテーマ】
鯉の恋の季節

案内人：小田谷嘉弥（鳥の博物館学芸員）

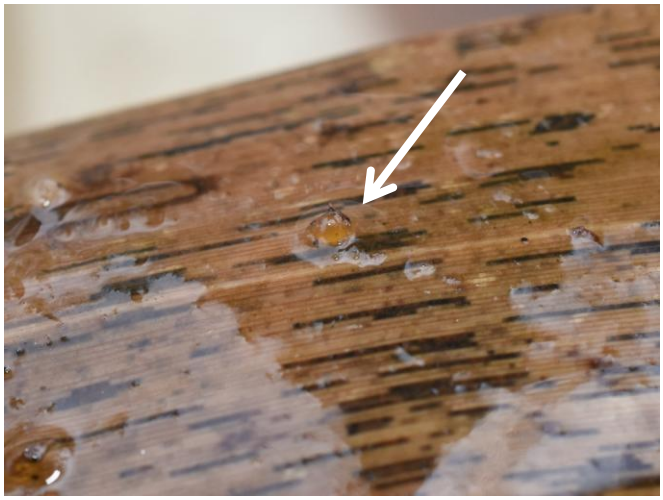
▲4月の手賀沼のヨシ原のようす。枯れたヨシやヒメガマの中に、ところどころから緑色の新芽が伸びています。

春から初夏に手賀沼沿いを歩いていると、時々、ヨシ原の中から「バシャッ」という大きな水音が聞こえてきます。これは、コイやフナの仲間が産卵をしているときに出す音で、この時期に産卵に浅瀬にやってくることを「のっこみ」といいます。今回は、のっこみの観察を通じて、生き物とヨシ原の関係を考えてみましょう。

2021年4月10日（土）

車や自転車に注意しましょう。水田や私有地では、マナーを守って観察しましょう。

「のっこみ」



▲枯れたヨシの葉にくっついた
コイの卵（矢印）。

コイやフナの仲間は、まだ水の冷たい4月ごろから、浅瀬に移動して産卵を行います。雌は水草の上に乗って卵を産み付け、雄は続いて同じように乗り越えて精子をかけます。その時にバシャバシャと大きな音を立てることから、岸辺からもその様子を観察できます。卵は数日で孵化し、稚魚は水温の高いヨシ原の浅瀬で成長します。

日本のコイと外来生物問題

日本でみられるコイのほとんどは、実は大陸から食用などの目的で導入された外来生物です。もともと日本にいた在来のコイとの間に交雑が進み、現在では、純粋な在来のコイは琵琶湖からしかみつかっていません。在来の系統は、より細長く体色の赤みに乏しいそうです。

コイは咽頭歯（いんとうし）という固いものをすりつぶす器官をもっており、さまざまな植物だけではなく、貝などの様々な動物も食べる雑食性です。
安易な放流によって在来の生態系に様々な悪影響がもたらされています。